

## 会議録

- 1 会議名 令和5年度 文化財保護審議会
- 2 日時 令和6年2月14日(水) 10時～12時
- 3 場所 大山崎町役場 第2会議室
- 4 出席者 (委員) 5名  
(事務局) 5名(教育長、次長、生涯学習課長、歴史資料館長、生涯学習課文化芸術係主任)
- 5 傍聴者 1名
- 6 概要

### 【教育長挨拶】

能登半島地震でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りし、被災された方のお見舞いを申し上げます。震災により文化財が倒壊・損壊などの被害を受け、文化の担い手も被災されており、文化そのものが存続の危機に瀕している。本会では町指定文化財に新たに2件を諮問させていただくのでよろしくお願い申し上げます。

### 【会長挨拶】

今年で米寿を迎え、それを期に本会の委員を退任したいと思う。それにあたっては新たに菱田委員を委嘱していただいた。教育長のご挨拶にもあったように、災害時にいかに文化財を守るのかということを平常時に考えなければならない。コロナ禍以降、対面での審議会が開催されておらず、その間に事務局の顔ぶれも変わったようである。特に長年にわたり大山崎町の埋蔵文化財を担当されていた職員が退職されたことが大きい変化だ。

本日は諮問が2件あるということで、活発な意見交換がされることを願う。

### 【議事】

#### (1) 町指定文化財の諮問

- ◇ 百々遺跡出土木簡
- ◇ 大山崎天王山天神八王子社文書

#### (2) 指定・登録文化財報告

#### (3) 諸報告

- ◇ 令和5年度 事業報告
  - ・ 文化芸術係
  - ・ 歴史資料館
- ◇ 令和6年度 事業計画
  - ・ 文化芸術係
  - ・ 歴史資料館

【議事にかかる質疑応答】

(1) 町指定文化財の諮問

◇ 百々遺跡出土木簡について

(委員) 「奥胡万」とは何か。えごまとの関わりはあるか。読み方は「おく」でよいか。

→ 「奥胡万」の実態は分かっていない。以下、専門家の見解であるが、「奥」については、

「おく」と読ませて備前国<sup>おく</sup>久郡を示している可能性もあるが、地名を産地に接頭させる例がないため定かではない。読み方は「おく」、「お」、「う」などが考えられるが、「お」、「う」については万葉仮名遣いとして違和感がある。いずれにしても中世のえごまとの関連を指摘するのは現状では困難である。

(委員) 共伴遺物や百々遺跡出土遺物を含めた一括指定ではないのか。木簡それ自体には年代を示すものがなく、占地者の性格を示すものでもない。土器や鈍尾などとの一括指定が良いと思うが、事務局の考えは。

→ ご指摘のとおり、本資料は年代や占地者の性格を表すものではないが、これまでの調査成果から浮かび上がる百々遺跡の特異性は街道沿いに立地する本町ならではのものであり、まさにその街道を介した物流の象徴である本資料一点を諮問するものである。

→→ (委員) 私は一括指定の方が良いと考えるため、その方向でも検討願う。

→→→ 承知した。

(委員) 出土してから年月が経っていると思うが、保存処理は行っているか。行っていないのであれば検討していただきたい。

→ 出土してから 40 年程度経過しているが、保存処理は行っていないが、今後検討する。

◇ 大山崎天王山天神八王子社文書について

(委員) 本資料は大山崎について記載されたものであるということは前提条件であるが、資料名である「大山崎天王山天神八王子社文書」の「大山崎」は必要か。

→ 必ずしも必要ではない。記載しないことも検討する。

(委員) 資料の購入には多額の前算が必要である中、本町がこうした購入事業を行っていることは大変大きな意義があり、高く評価できる。

(2) 諸報告

◇ 令和 5 年度事業報告について

(委員) IK81 次調査 (史跡大山崎瓦窯跡北側隣接地での調査) の成果は。

→ 中近世の石段を検出した。古代の遺構の掘削はこれからを予定している。

(委員) 山崎廃寺ミニシンポジウムはいい事業だった。

(委員) 有形文化財の修理事業について、補助率は。

→事業費の60%が国庫補助、残り40%のうち民間補助金を除いた残額の50%が府補助、さらにその残額の50%が町補助となっている。

(委員)『蘭花譜』の展覧会は毎年開催されているが、参加者が多い。高齢の方が多くなり、草花の写真を撮る人も多い。町全体で『蘭花譜』のことを知ってもらい、その財産を活かしていくような街づくりができればいいと思う。

→『蘭花譜』展は毎年テーマを変えて実施していることにより、多くの方にご来場いただいているのかもしれない。近年、これまで展覧会に来られていなかった方々にも足を運んでいただけるようになっており、手応えを感じている。

(委員) ガラス乾板は傷みやすいと聞いている。保存処理やデータ化などはできるのか。

→電子データ化は済んでいる。乾板自体の保存処理はまだであるが、大正年間の庭園を中心に据えた大山崎山荘の姿や、加賀正太郎氏の、奥様やご友人との関りが記録されている貴重な資料である。

(委員) 博物館実習の人数が少ないように思うが、例年どおりか。

→今年度は大学の都合で10~11月に実習を行ったため、都合のつく学生が少なかったようである。

#### ◇ 令和6年度事業計画について

(委員) 京都市内ではインバウンドが大変だと聞くが、大山崎町の状況は。

→あくまで感覚であるが、以前、宝積寺では外国の方が少し減ったように思う。資料館のパネルには日本語・中国語・韓国語を併記し、外国の方の来訪に備えている。

(委員) 近年「エコミュージアム」という考え方が出てきた。地域の文化・自然・民俗などあらゆるものを取り込んだ博物館が求められるようになってきた。その意味で、大山崎町の規模はとてもやりやすいように思う。

→字大山崎だけでなく、字円明寺、字下植野にある文化財の掘り起こしを含めて保存活用計画に取り組みたい。

(委員) 保存活用計画というのはある種の理想論であるが、今後の文化財行政の指針となるものであり、今後取り組まれることとなった際には良いものを作っていただきたい。